呉医療センターで診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問合わせ先にご連絡ください。

① 該当者	2009 年 4 月 1 日～2024 年 8 月 31日の期間に当院にて、呼吸器外科手術（解剖学的肺切除）を受けた患者さんのうち気管支断端瘻（合併症）を発症された患者さん			
② 研究課題名	解剖学的肺切除後気管支断端瘻に対する開窓術後陰圧閉鎖療法の有用性			
③ 実施予定期間	2024 年 9 月 ～ 2025 年 8 月			
④ 実施機関	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター			
⑤ 研究代表者	氏名	三村 剛史	所属	国立病院機構 呉医療センター 呼吸器外科
⑥ 当院の研究責任者	氏名	三村 剛史	所属	国立病院機構 呉医療センター 呼吸器外科
⑦ 使用する試料	収集する診療情報は下記の通りです。 年齢、性別、喫煙歴、併存疾患、術前 CT における腫瘍径、術前呼吸機能、臨床病期、術式、手術時間、出血量、術後合併症、開窓術の方法、陰圧閉鎖療法の有無、創閉鎖に至った期間、全生存期間、死因 ※上記診療情報は、研究終了後まで厳重に保管され、その後適切な方法で破棄されます。 診療情報は研究者によって保管されます。 ※当院の研究者が収集した情報を取り扱います。			
⑧ 目的	呼吸器外科領域の手術において、最も標準的な手技である解剖学的肺切除（肺葉切除や肺区域切除）後に発生する可能性のある重篤な合併症の一つとして、気管支断端瘻が挙げられます。この合併症が発生した場合、一期的に閉鎖することが難しく、通常は開窓術を選択します。しかし、その後の長期にわたるガーゼ交換は、患者さんの生活の質（QOL）に大きな影響を及ぼします。当科では、2019 年以降、陰圧閉鎖療法を積極的に導入しており、この治療法により早期の創閉鎖を達成しています。本研究では、陰圧閉鎖療法を使用しなかった患者さんと使用した患者さんについて、創閉鎖の達成状況や創閉鎖までの期間などを比較検討します。この研究により、解剖学的肺切除後の気管支断端瘻に対する、より効果的な治療法の確立が期待されています。			
⑨ 方法	① に記載の該当患者さんの、⑦に記載している診療情報を収集しデータ解析を行います。 陰圧閉鎖療法を使用しなかった患者さんと使用した患者さんについて、創閉鎖の達成状況や創閉鎖までの期間などを比較検討します。			
⑩倫理審査	倫理審査委員会承認日	2024 年 9 月 20 日		
	院長承認日	2024 年 9 月 20 日		
⑪公表	個人情報は保護したうえで、研究成果を学会や医学論文などに発表することがあります。			
⑫プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報は一切使用しません。			
⑬知的財産権	将来、この研究の成果が得られ、知的財産権が生じる可能性もありますが、その権利は研究者もしくは所属する研究機関に帰属します。			
⑭利益相反	本研究では、利害の衝突は一切生じません。			
⑮問い合わせ	連絡先	三村 剛史	電話	0823-22-3111（代表）
	国立病院機構 呉医療センター 呼吸器外科			

呉医療センター院長